

企業価値向上に向けた取り組み

－ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応－

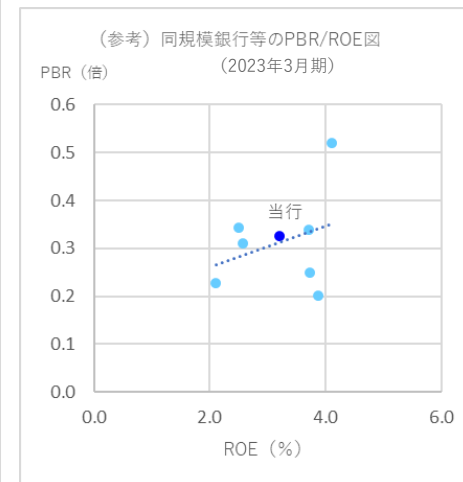
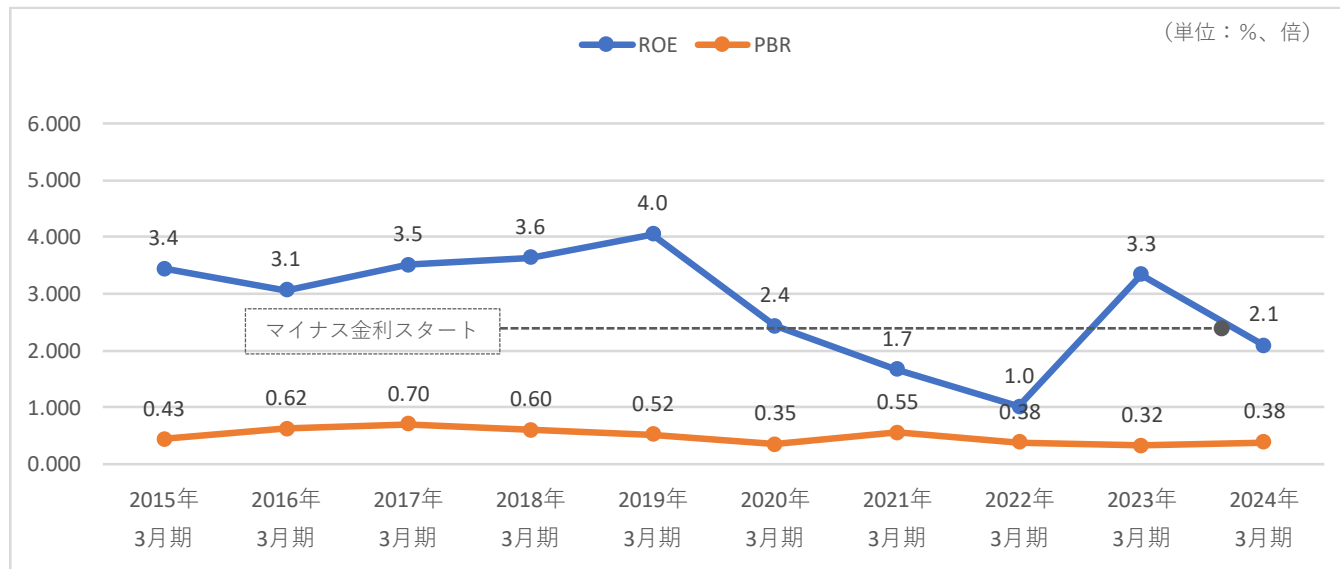
2024.5



<https://www.toyamabank.co.jp/>

企業価値向上に向けた取り組み ～現状認識

- 金融経済環境が大きく変化するなか、トップライン収益力の強化、効率的な経営の実践に取り組むも、PBRは低水準で推移
- ROEの向上と株主資本コストの抑制（PERの向上）に向けた取り組みが必要



企業価値向上に向けた取り組み ～PBRロジックツリー～

- ・第7次中期経営計画（2024年度～2028年度）遂行によるPBRの改善
 - RORAを意識し収益力を向上させるとともに、自己資本水準の適正なコントロールによりROEの向上を図る
 - 地域の課題解決等を通じて地域経済を活性化し、持続的な利益成長を実現。期待成長率を向上させ、株主資本コストの抑制を図る

PBRの計算式

$$\text{PBR} = \text{ROE} \times \text{PER}$$
$$= \text{ROE} \div \left(\frac{\text{株主資本コスト} - \text{期待成長率}}{\text{（広義の株主資本コスト）}} \right)$$

株主資本コストの現状認識

当行では、株主資本コストを8%程度と認識

2023年度末の株主資本コスト (CAPMに基づき当行独自で算定)	8%程度
--------------------------------------	------

企業価値向上
(中計最終年
PBR0.5倍以上)

ROE向上
(2024/3末：2.1%
中計最終年：3.1%)

広義の株主資本コストの抑制
(6%以下を目指す)

収益力の向上
(RORAの改善)

自己資本比率の
コントロール

期待成長率の向上

- ・リスク・アセットの効率的な入れ替え
- ・ソリューション関係手数料を軸とした収益の向上

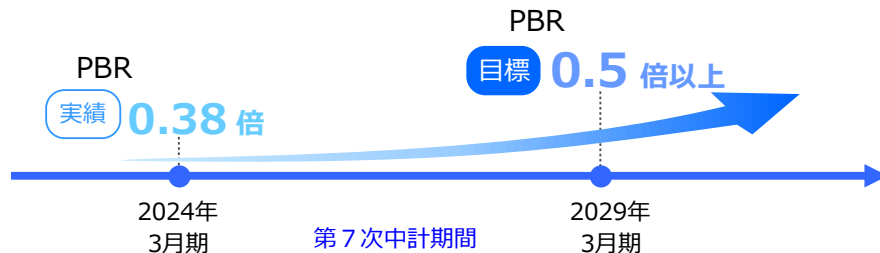
×

- ・財務レバレッジコントロール
- ・自己資本比率8%台維持

- ・本業を通じた地域貢献と課題解決による持続的な成長
- ・非財務情報を含めた開示の充実
(環境配慮型経営、人的資本経営 など)

企業価値向上に向けた取り組み ～今後の具体的取組み

- 第7次中期経営計画（2024年度～2028年度）に掲げる重点戦略を実現することで企業価値を向上させる
向上に向けたロードマップ



第7次中期経営計画 重点戦略			
収益力の向上 (RORAの改善)	トップラインおよび 課題解決力の強化	融資・リノベーション リテール 地域商社 市場運用力	事業を經營されるお客さまの課題解決を通じた関係強化 お客さまに寄り添ったリテール營業の推進 共通価値と地域間シナジーの追求 融資と並ぶ収益の柱としての運用力強化
自己資本比率の コントロール	經營効率の追求	店舗戦略 ムダ、ムリ、ムラの排除 新たな業務プロセスの確立	戦略的かつ効率的な店舗展開 既存業務の徹底的な見直しによる生産性の向上 先進技術・ICT活用
期待成長率の向上	人的資本投資 の深化	人財ポートフォリオ 人財育成 DE&Iおよび健康經營の推進	持続可能な人財ポートフォリオの構築 人財のレベル底上げと多様な専門人財の育成 働きがいと幸福をより実感できる職場づくり
	強固な經營基盤 の確立	ガバナンス リスク管理 コンプライアンス フィデューシャリーデューティー	効率的かつ実効性あるガバナンス態勢 効果的なリスク管理態勢の確立 法令等遵守態勢の一層の強化 お客さま本位の業務運營の実践
	IR・ブランディング の浸透	株主価値 地域貢献	株主価値の向上を目指して 地域を愛し、地域に貢献する